館報 千代

第２９０号
発行
千代公民館
編集
広報委員会
印刷
有限会社飯田写真印刷

＜千代の人口＞
平成28年12月末日現在
男　824名（－２）
女　901名
合計 1,725名（－2）

翔け 未来へ 新成人!!

一月八日（日）午後一時より、千代地区成人式が千代公民館に於いて行われた。今年の千代地区の新成人は十五名で、十四名が参加した。

玄関前の記念撮影では曇天の中にも鮮やかな振袖、羽織、背広姿が輝いていた。

式典では北村公民館長より昨年逝去された同級生の北村智之さんに黙祷を捧げ、彼の遺影と共に式が始まった。川手重光まちづくり委員長からは「身体髪膚（しんたいはっぷ）」身体のすべては父母から授かったもの、傷つける事無く健康で大切にすることが親孝行であると熱く話された。

新成人の代表として二名が挨拶して、八ノ倉の清水拓実さんは「大学で農業を勉強している、この地で活かしていきたい。」また法全寺の熊谷綾星さんは「現在、看護師になる勉強をしています。将来は人の為に頑張りたい。」と二人共しっかりと自分の将来を描いて頼もしく感じた。

○前列右から
島岡あか李（田力・浩士）
澤田　歩（芋平・芳和）
榊山　未貴（野池・健二）
熊谷　綾星（法全寺・裕隆）
榊山　和希（野池・富春）
清水　彩香（下村・智）
北澤　沙耶（山中・哲也）
長沼　美沙（大郡・宗雄）
山口　真実（下村・友博）

○二列目右から
楯　倫明　消防団分団長
澤柳　優斗（米峰・嘉一）
栄露　純也（米川・守美子）
林　達也（荻坪・英明）
清水　拓実（八ノ倉・俊一）
林　優介（米川・孝子）
川手　重光　まちづくり委員会会長
伊藤　久子　自治振興センター所長

○三列目右から
北村　勝志　千代公民館長
佐々木栄子　千栄小学校恩師
吉村　由紀　千代小学校恩師
千葉　富夫　千代小学校恩師
柳瀬　賢司　千栄小学校恩師
片瀬　月子　千代小学校長
清水　俊一　総務社会部副部長
大平みさゑ　日赤奉仕団分団長

○四列目右から
竹下　英子　総務社会部
伊藤　増子　総務社会部
篠田　敏秀　総務社会部副部長
藤本　照之　まちづくり委員会副会長
吉澤　富夫　総務社会部長
市瀬　鎮夫　地域協議会会長
佐々木賢則　総務社会部
新井　康平　公民館主事

＊（　）内は、地区名・保護者名

二十歳を迎えて

芋平　澤田　歩

二十歳を迎え、自分の選んだ道を進んでいる中で、たくさんの方々に支えて頂いていること、そして自分がとても恵まれた環境で育って来られた事を改めて実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。二年間の大学生活で地元を離れてみて、家族や地域の方々の温かさをひしひしと感じました。今までの多くの出会いが、すべて私の宝物となっています。また、きれいな星空や空気、豊かな自然、千代は私の自慢であり、心の支えです。

今年は大学を卒業し、小さな頃からの夢であった保育士一年目となる節目の年です。大人としての自覚を持ち、自分なりに精一杯頑張りたいと思っています。不安もありますが、それ以上の期待を胸に、新たな道へ笑顔で一歩を踏み出そうと思います。二十年間支えてくださった家族や友達、地域の方々への感謝の気持ちを忘れず、これからは少しずつ支える側になれるよう努力していきます。これからもよろしくお願い致します。

成人を迎えて

下村　清水彩香

一月八日私たちは晴れて成人を迎えることとなった。成人となり、実感があまり湧かないが、普段の生活の中で成人になったことを感じる場面にこれからいくつも遭遇することだろう。また精神面でも成人だという認識を胸にとどめ、社会の中で責任ある立場になったという自覚を持つことが大切になるだろう。

成人になるにあたり親への感謝を忘れず、自らが考え行動するという姿勢を実践するために、親の背中を手本としつつ、一層の努力をしていかなければならない。そのために他人の意見を広く聞き、目上の人への敬意を忘れず様々な人に支えられているということを常に心に刻みながら向上心を持って生活していくことが必要だと考える。

今日無事にこの日を迎えて、改めて自分が社会の一部であることに対して深く考えていく必要があるだろう。それは今日だけに限らずこれからの生活の中で養っていくべきことである。

恩師からのYELL（エール）

千葉富夫先生
（亡き教え子を偲び）

やれるのにやらなかったり怠けていませんか。やりたくても出来なかった友がいる事を忘れないで欲しい。

これからは一つ一つが自分の責任です。世の為、人の為に活躍される事を期待しています。

佐々木栄子先生

四人との想い出は幸せの四葉のクローバーです。私の宝物です。社会の中で自分の体を通して人と出会い、チャレンジして欲しい。

千代、千栄は人材の宝庫です。地域を支える一人になって下さい。又、是非一緒に飲みましょう。元気でね。

吉村由紀先生

人生に後戻りは無い。一歩一歩前に進むだけで人生一方通行だ（アガサ・クリスティー語録）。だから今を大切に立派な社会人になって下さい。二十年先、三十年先も誰一人欠けることなく素敵な大人でいましょう。皆さんの未来を心の中でいつまでも見守っています。

柳瀬賢司先生

子供たちの成長に驚きました。保護者や地域の方が暖かく育ててくれたと感じます。これからはご両親ご家族を大切に自分の夢、目標に向って頑張ってください。

親の意見と冷や酒は後から効いてくる。活躍を期待しています。

イナズマ

ＮＨＫがテレビ放送を始めた一九五三年（昭和二十八年）二月一日から本日まで六十三年あまりが過ぎました。民放も、日本テレビ放送網で同年八月から放送が開始され本日に至っています。

最初は中々普及しなかった白黒テレビでしたが、一九五九年皇太子ご成婚の年に、普及が二百万台を超え、急速に普及し、白黒テレビからカラーへ、またブラウン管から液晶へ、その頃地デジ放送も始まりさらに進化をしてきました。

立て続けに起こる災害や事件などの情報を皆さんはどこから入手しているでしょうか。携帯やスマホからが多いのではないでしょうか。昨年は携帯、スマホが「情報が早くて新しいメディア」の一位になりました。次はパソコン、その次がテレビのようです。

これからはテレビの役割が大きく変わっていくと思われます。

最近ではテレビの視聴率が低迷し、ファミリー層のテレビ離れが加速しています。携帯の普及率が九十五％を超え、そのうちスマホが六十四％にまで達している今、天気予報、地震情報などの検索を今ほとんどの人がスマホからではないでしょうか？

今後テレビはバラエティー番組から、情報バラエティー番組へとシフトしていくと思われます。

2017年（平成29）年の年男年女

酉年の生まれの皆さん

米川 木下 凌

皆様明けましておめでとうございます。一月末に二十四歳を向かえ、酉年、年男ということで、今まで以上に飛躍できる一年にしたいと思います。大学卒業後に一年間の就職浪人を経て、現在はスポーツ関係の仕事に就き、毎日楽しく刺激の多い生活を送っています。

今年はより一層チャレンジ精神、向上心を持ち、自分のみならず、周りの方々も笑顔に出来る存在になれるように頑張ります。

野池 榊山 泰道

還暦、まだ先だと思っていましたが、その年を迎える年齢となりました。

赤いちゃんちゃんこは着ませんが、この年に赤色を身に着けると魔除けになるそうで、赤いパンツくらいは履いてもいいかな?。

六十歳という節目、会社も定年を迎えます。酉年は『とりくむ』という縁起の良い年、一つの区切りとして運気を取り込み、健康でこつこつと目立たないように頑張って過ごします。

山中 山田 宗子

一つの節目として戦後と言われる、昭和二十年の酉年生まれです。あれから七十二年、いろいろありましたが、結婚して三人の子供、七人の孫、そして昨年曽孫が生まれ、それぞれに独立しておりますが、私にとって、とても幸せなことです。

今年も足が悪い腰が痛いといいながら、夫婦仲良く?皆に助けられながら、梨・桃・干柿作りにと、がんばりたいと思います。

大郡 木下 貴文

五回目の年男、還暦です。近隣のマラソン大会で、前回より遅いと「練習不足かな」と独り言つぶやきますが、そればかりではありません。

今年は会社生活でも区切りをつける年になります。ゴールを走り抜けたいと思っています。

その先は未だ判りませんが、昨年聞いた「迷ったらやってみる」という言葉を大切にしたいと考えています。

芋平 林 ふさ子

早いもので七回目の酉年を迎え、日々足元に注意を払い健康に気を配る今日この頃です。

年毎に動きの悪くなる手足ですが、ボケて来た私を御近所の皆さんに助けて頂き乍らの毎日ですが、あっと言う間に日が過ぎてしまい、一日の短いこと。一ヶ月や一年と毎年短く感じ乍ら少しでも動けることに感謝しながら、今日はこたつ番。暖かくなったら何をしようと計画を立てるが計画倒れです。

毛呂窪 川上 裕子

気づけば三回目を迎えた年女となりました。特に三年程前から体調不良に見舞われ、昨年は、通院ばかりした年でした。そして、欠かす事のない薬の日々…今年は、避けられる様なりたいものです。本当に常日頃、元気は大切だと思います。主人には頼りっぱなしで、毎日たくさん助けてもらってます。一応、私も家の要なので、健康に留意して平穏無事に過ごせたらと思います。

野池 榊山 敦子

日々を大切に過ごしたいと思いながら、時はあっという間に過ぎていく。人は生かされているというけれど、この年になって、自分の役目が少しわかってきた気がする。でもそれは、家族をはじめ、周りの人の助けがあってできること。十年前に切迫早産で二ヶ月半、入院をした時の同室の方と今も集まっている。千代には、仲の良い同級生もいてくれる。心強い。これからも常に感謝の気持ちを忘れずにいきたいと思う。

下村 清水 成俊

社会人としての二年目が終わり、三年目に突入。学ぶことが多く、未熟だと己の至らなさを感じている。その反面、徐々に成長しているのも確か。出来無かったことが一つ又ひとつと出来るようになった。それがとても嬉しい。今年の抱負は、出来ることを更に増やし幅を広げること。仕事に限らずプライベートでも何かに挑戦する姿勢。酉年故に取り組み、取り組むってね。

下村 清水 八重

早七回目の年女となり、良くぞ生きてこられたと思います。小学生の頃は戦争真只中でろくに食べる物も無く、戦後の混乱期は家の為に一生懸命働きました。

その後家庭に入っても知らない事ばかりでした。

しかし、ご近所の方々に支えて頂き何とか子育てを終え、それからは地域の人々とグループの中で多くを学びました。特にボランティアとして、皆さんと力を合わせ行っている小学生との子供集会は楽しみの一つです。

このような暮らしが出来るのも平和が続いているからこそです。新年にあたり未来の子供達の幸せの為に長く平和が続く事をお祈りしています。

法全寺 川手 剛

今年は自分にとって大きな節目になる年かもしれません。というのも実は今年、私に消防団の分団長という身に余る役職を任せて頂けるということなので、組織をまとめていけるかという不安もありますが、自分なりに精一杯に務めて、地域に貢献していきたいと思います。

また、いまだ独身でおりますので、良い出会いに巡り合えるように、そろそろ婚活などをがんばっていかなければならないな、と思っております。

年男のこの一年を、実り多いものとして過ごしていけるようにしたいです。

米川 北澤 ひより

私は、今年六年生になります。今年の目標は、学校では、友達を大切にして、仲良くしたいです。そしてたよりにされる六年生になれるようにがんばりたいです。最後の小学校生活なので思い出をたくさん作りたいです。

家では今、ハムスター二ひきと犬を一ぴきかっています。私は動物が大好きなのでお世話をしっかりしたいです。色々な事を楽しくがんばります!!

毛呂窪 鏑木 祐子

十四年程前Iターンしてきた時に、信州に住むならと、新調した革の登山靴。出産や子育てで、ずっと出番のないままでしたが、一昨年から、時々娘と山登りを楽しむ様になりました。

昨年は、南ア仙丈ヶ岳。雷鳥やツキノワグマを見かけたり、七月の残雪に驚いたり。北アの燕岳復路では、終バスに遅れまいと、急坂を駆け下りて、足がカクカク。晩秋の大川入山は、カラマツの黄葉が見事でした。

千栄の暮らしですっかり健脚の五年生になった娘に付き合える様、体力をつけて、本年も信州の自然を満喫したいと思っています。

米川 北澤 静子

あっと言う間に六回目の年女になってしまいました。気持だけはまだまだと若い気持でおりますが、体力的には現実衰えている事を認めざるをえません。又物忘れも多く「物忘れ課」に属してしまい心配ですが、七十才を過ぎても仕事を与えてくれ職場で働かせてもらっている事に感謝の気持を持ち、まだ当てにされているという事は大きな生きる力となっております。大好きな孫の様な子供達と自分の子供の様な先生方からエネルギーをもらって、もう少し頑張る事が出来たらと、年頭に思う所です。

田力　吉澤　みどり

千代での約三回目の年女になります。地区の事を知らず今まで来、ウォークラリー等通じて、千代の事を少しずつ学んでいます。

何にも興味を持ち、行動すると楽しさが広がります。〝者・物〟を多方面から、観、感じています。千代の良さ、豊かさを少しでも外に発信していきたいと思っています。家族・自身の健康に気を配って、公民館活動にも参加していきます。

米峰　太田里奈

山梨の大学を卒業し、飯田伝統の和菓子を販売する仕事に携わっています。生活も一変し、社会人ならではの苦労を身に染みて感じています。そんな毎日に慣れてきた今、こんな年にしたいという強い願望こそありませんが、様々な人と関わっていく中で、自ら成長したと感じる一年になればいいなと思っています。

そして、毎日を支えてくれる家族に感謝しつつ、忙しくも穏やかな日々を送りたいです。

下村　清水綾乃

わたしは今年、小学校生活が最後の一年になります。一つ一つの行事を楽しんで、学校生活を送りたいです。そして、学校の中で最高学年になるので、新しく入ってくる一年生のみんなに、学校のことについて教えてあげたり、優しくしてあげたいです。

たくさんの思い出を作って、くいのない、最高の一年にしたいです。

荻坪　荻原健二

定年後花卉栽培を始めて二十年余、数多くの花を作りました。行事等の時期に合せる花は自然相手なので難しいものですが、苗から育て花を付け出荷となると忙しいながらも嬉しい時です。上片桐、南信濃、新野まで栽培者を訪ね指導を受け大勢の方と知り合えた事も有難い事です。

これからも年だからを強調せず家内と二人、力を合せても一人前の思いで程々にやって行きたいものです。

法全寺　川手訓雄

還暦を過ぎたころから、月日のたつのは早いもので、もう七十二年、肩・膝の痛みにたえながらの生活を今はしています。

一昨年、長男をなくし今は妻と二人暮らしです。月に二、三日孫がくるのが多少のささえとなっている今日この頃です。

七十をすぎると人の名前や、一部の漢字が出てこないとか、ちょっとした度忘れを誰にもあると思うが今はその様になってきました。体力の続く限り外に出ては動き地区の皆さんに協力し又、助けてもらいながら、少しのんびり暮らせていけたらいいと思うが…。

謹賀新年

千代地区の皆様方に於かれましてはつつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年も広報委員会は地域の情報を正確にお伝えすると共に、地域の輝ける未来のために活躍されている方々を紹介してまいりたいと思います。本年もよろしくお願いします。

千代公民館広報委員会

いつまでもお元気で

＊＊＊千代地区長寿者名簿＊＊＊

順位	組合	氏名	年齢
1	米川－4	佐々木　ヲクニ	99
2	荻坪－1	林　君子	98
3	下村－3	清水　幸	97
4	米川－4	北川　かね	97
5	米川－7	北澤　みづほ	96
6	米峰－1	澤柳　タマキ	96
7	八ノ倉－2	清水　久仁	96
8	米川－3	藤本　清治	95
9	野池－4	北澤　初恵	94
10	山中－2	篠田　はるゑ	94
11	大郡－2	長沼　まさゑ	94
12	野池－3	宮下　初美	94
13	毛呂窪－1	遠山　シナ	94
14	野池－1	大平　章子	94
15	野池－3	榊山　文子	93
16	大郡－1	林　清隆	93
17	野池－4	吉地　祐一	93
18	下村－1	井澤　巧	93
19	法全寺－2	喜多沢　なつゑ	93
20	下村－4	原　勝恵	93
21	下村－3	鈴木　廣實	93
22	荻坪－1	篠田　邦好	93
23	大郡－2	小澤　好一	93
24	下村－2	藤本　榮子	92
25	下村－1	山口　はるこ	92
26	野池－4	吉地　久米	92
27	毛呂窪－2	伊藤　あさ江	92
28	法全寺－4	熊谷　美佐子	92
29	法全寺－4	川手　朋子	92
30	毛呂窪－1	松島　さだゑ	91
31	下村－1	井澤　とし	91
32	下村－3	清水　親逸	91
33	八ノ倉－3	清水　春子	91
34	法全寺－4	山﨑　喜代美	91
35	野池－4	吉地　栄	91
36	荻坪－2	吉澤　ちはる	91
37	大郡－4	長沼　正美	91
38	大郡－1	小澤　みす	91
39	大郡－1	林　千秋	91
40	野池－6	松澤　平吉	91
41	下村－2	清水　成彦	90
42	野池－4	熊谷　タセ	90
43	下村－2	藤本　里津	90
44	下村－5	榊原　キサ	90
45	芋平－3	岡本　伊佐男	90
46	野池－1	北澤　久代	90
47	大郡－1	長沼　ちほゑ	90
48	大郡－2	小澤　みのり	90
49	田力－4	萩元　冨貴子	90
50	米川－1	熊谷　あい子	90
51	芋平－1	松下　ちふみ	90
52	法全寺－2	関口　さだ	90
53	米川－4	藤本　清一	90
54	米川－6	福澤　ふみ	90
55	下村－2	清水　精子	90
56	野池－7	西　保子	90
57	山中－2	篠田　誠信	90
58	毛呂窪－4	林　静磨	90
59	米川－6	金田　園子	90
60	米川－5	林　みさ子	90
61	大郡－3	佐野　八重子	89
62	米川－6	川手　ゑつ子	89
63	米峰－1	林　利恵	89
64	野池－1	小笠原　進	89
65	荻坪－1	篠田　千代子	89
66	米川－6	関口　富子	89
67	下村－1	山口　金司	89
68	大郡－4	楯　信子	89
69	野池－2	熊谷　とみ子	89
70	野池－3	木下　秀美	89
71	芋平－2	辻元　美代子	89
72	米川－6	金田　泰平	89
73	米川－6	吉村　米	89
74	法全寺－3	関口　達喜	89
75	下村－3	鈴木　孝子	89
76	荻坪－2	林　多代子	89
77	毛呂窪－4	竹下　和美	89
78	山中－1	北澤　卓明	89
79	法全寺－3	小嶋　三省	89
80	野池－4	北澤　フミ	88
81	山中－2	篠田　キヨコ	88
82	米峰－3	竹下　千富利	88
83	山中－1	中山　そよ	88
84	米川－4	北村　とき	88
85	毛呂窪－4	林　千尋	88
86	毛呂窪－4	林　カヱ	88
87	法全寺－1	村松　咸生	88
88	大郡－4	楯　なをゑ	88
89	法全寺－3	関口　はつ子	88
90	毛呂窪－5	林　あさゑ	88
91	毛呂窪－4	大澤　朝雄	88
92	米川－3	嶋岡　善昭	88
93	毛呂窪－6	竹下　昌義	88
94	毛呂窪－4	竹下　つね	88
95	法全寺－2	森山　昭吉	88
96	毛呂窪－2	大澤　かねこ	88
97	下村－1	山口　満子	88
98	毛呂窪－2	伊藤　成子	88
99	米川－5	大渕　眞澄	88
100	大郡－2	柿野　房子	88

※この名簿は本人の了解のもとに発表致します。
平成28年12月現在で８８歳以上の方を掲載しています。誤り等ございましたらご容赦ください

よこね田んぼのフォトコンテスト

最優秀

「秋の収穫」　松川町　伊藤 孝行

委員長特別

「秋の収穫観戦」

飯田市　久保田 莉奈

優 秀

「彼岸花に誘われて」

飯田市　加藤 善子

歴史講座

千代の人物伝 シリーズ⑧ 林　秀三郎

幕末の安政二年（一八五五）父茂久八、母里うの長男として芋平の素封家林家屋号「平林館」に生まれる。

時代は江戸幕府から明治維新へと移る。新政府は明治二十一年四月に市政町村制を公布した。

翌年の明治二十二年五月に千代村・千栄村の両村合併により千代村として発足創立された。林秀三郎、若干三十四歳の若さで初代村長となった。

唐突に村長に選出されたのではなく、二十歳で千代村戸長に、更に二十六歳で連合議会議員に選出されていた。若くから頭角をあらわしていたからこそ、初代村長に選任されたのである。

その後明治二十五年三十七歳で村長を退任。明治二十八年四十歳で千代村農会を発足し初代会長となる。

江戸幕藩体制から明治維新を経て中央集権的国家の移行期、転換期に明治政府の政策に、千代村村政のリーダーとして戸長・村長・農会長として、その後の千代の発展の基礎を築いた功績は大きなものがある。

家業は醤油味曽の製造業

明治三十七年没

享年五十歳

（参考）初代村政は重厚なメンバーで助役・収入役・書記・村会議員の中から多数の人が後に村長になる。

ふるさと講演会

地域で支えよう認知高齢者

文化委員会主催による、ふるさと講演会が、十一月二十六日（土）「認知症を学び地域で支えよう」と題し飯田市の長寿支援課久保田加代子先生を講師に迎え行なわれた。

飯田市は平成二十八年三月介護認定者の中で、八十五歳以上では四人に一人が認知症となっている。健常者で物忘れ程度の予備軍の人も予防法はなくいつ発症しても不思議ではない。

認知症の人は物忘れによる失敗で常に叱られていると感じている。家族も介護に大きな負担がかかり心が傷つき孤独を感じている。

認知症の人への接し方は驚かせない・急がせない・自尊心を傷つけないの三つの「ない」がポイントで、参加者は紙芝居やロールプレイイングをして理解を深めた。

参加者の「認知症の家族への他人の接し方が見ていて悲しい」との訴えに、講師も「私も九十代の母が認知症で紙芝居を読んでいて状況が重なって涙が出てきます」と答えられた。

千代地区は今後、認知高齢者が増加する。誰しもが他人事ではいられなくなる。

医療や行政に頼らず、隣近所で見守りできるよう多くの人が認知症を学び理解する必要がある。

ちよ端会議

千代&東野 交流会

十一月二十三日（水・祝）に今年度二回目となる千代・東野交流会が東野地区にて行われた。両地区には、住民によって開かれる有志の会があり、地元への熱い想いを共有してきた。また、自分たちの地区の魅力を再発見し、別の地区の良い取り組みを見習うための情報交換を目的として始まったのが、この千代・東野交流会である。前回は、千代にて行われ、千栄の下村地区にある民宿「宮のまえ」にて、わらび取り体験をし、千代の自然の良さを実感したり、地域のために活動する住民の想いに触れたりするなど、千代地区の住民にとっても、東野地区の住民にとっても大変刺激的な交流会であった。

二回目の交流会である今回は、東野地区にて行われる「文化の路探訪会」に参加した。普段は車で通るような道を歩き、東野地区の歴史に触れた。今回参加したのは短距離のコースであったが、もう一方のコースは比較的長距離のコースであり、しっかり体を動かしたい方には最適であった。この長距離コースは公民館でなく、地域住民の有志により運営されるらしく、その運営方法についても興味深いと感じた。自分たちが興味を持っていることに、自分たちで計画をし、事業として成り立たせていることに強く感動した。なんでもやってみようとする東野地区の人柄や地域柄に良い影響を受け、千代地区でもさらに活発な活動をしていけたら良いなと感じた交流会であった。

八ノ倉秋の祭典

十月十日（月・祝）午後一時、千栄小学校の体育館にて、八ノ倉区民による囲碁ボール大会が開催された。総勢二十名余りの人が参加し、それぞれ四、五人ずつの四チームに分かれて行われた。当日は体育の日ということもあり、楽しく体を動かしながら親睦を深めていた。

囲碁ボールは、マレットゴルフのようなスティックを使って、玉を打って並べ、最終的に並べた玉の個数によって点数をつけて競うゲームで、マレットゴルフに親しみのある年配の方も、マレットゴルフや囲碁をやったことのない子どもたちも楽しむことができるニュースポーツである。

二つのコートで試合回数に違いはあったものの、どのチームも好プレーが見られ、順位をつける際の点数も僅差であった。参加者には豪華な景品が用意され、終始盛り上がった囲碁ボール大会であった。

感謝の気持ちをこめて

千栄小ＰＴＡ会長　松澤　晃

十一月二十六日（土）に、千栄小学校において、『とん汁・もちつき大会』が行われました。

当日は、朝から親子で力を合わせて、とん汁の具材の準備・もちつきの準備をしました。お母さん方と慣れない包丁を使ったりして具材の準備をしました。

そして、もち米が蒸かし上がると、三つの臼でもちつき開始。最近では、もちつきの機会が少ない中、子供達は、親子で大きなかけ声を出して、上手につき上がりました。臼によっては、三世代でもちをついていました。

そして会食です。日頃お世話になっている地域の皆様、一人暮らしのお年寄りをご招待し、総勢約百七十名の方と楽しく会食し、歌や人形劇の発表をしました。

お客様からも、「おいしかった・楽しかった」とお声を頂きとても嬉しく思いました。感謝の気持ちを伝えられた一日でした。

告知板

○二月十四日（火）
「千代地区申告相談」

○二月十九日（日）
「飯田市公民館大会」

戸籍の窓

○お誕生

近藤　大真（はるま）くん
広次朗・久美子　長男（山中）